

木古内の寒中みそぎ

行修者に秋田出身の函教大生

藤原さん「頑張り抜く」

【木古内】来年1月に行われる寒中みそぎ祭りの新人行修者ぎやうしやうしやに、秋田県出身で道教育大函館校1年の藤原哲朗さん(19)「函館在住」が選ばれた。181年の歴史を誇るみそぎ祭りでは、行修者に道外出身者が選ばれるのは初めて。藤原さんは「4年間頑張り抜き、木古内の皆さんに認められたい」と意気込んでいる。(大城道雄)

寒中みそぎは町内の人が入れ替わる。最近、者が務めることが多か。藤原さんは秋田県湯沢市出身。地元の高校

佐女川神社で1831

年(天保2年)に始ま

った神事。行修者と呼

ばれる4人の若者が1

月13日から3日間、裸

で水を浴びる「水ごり」

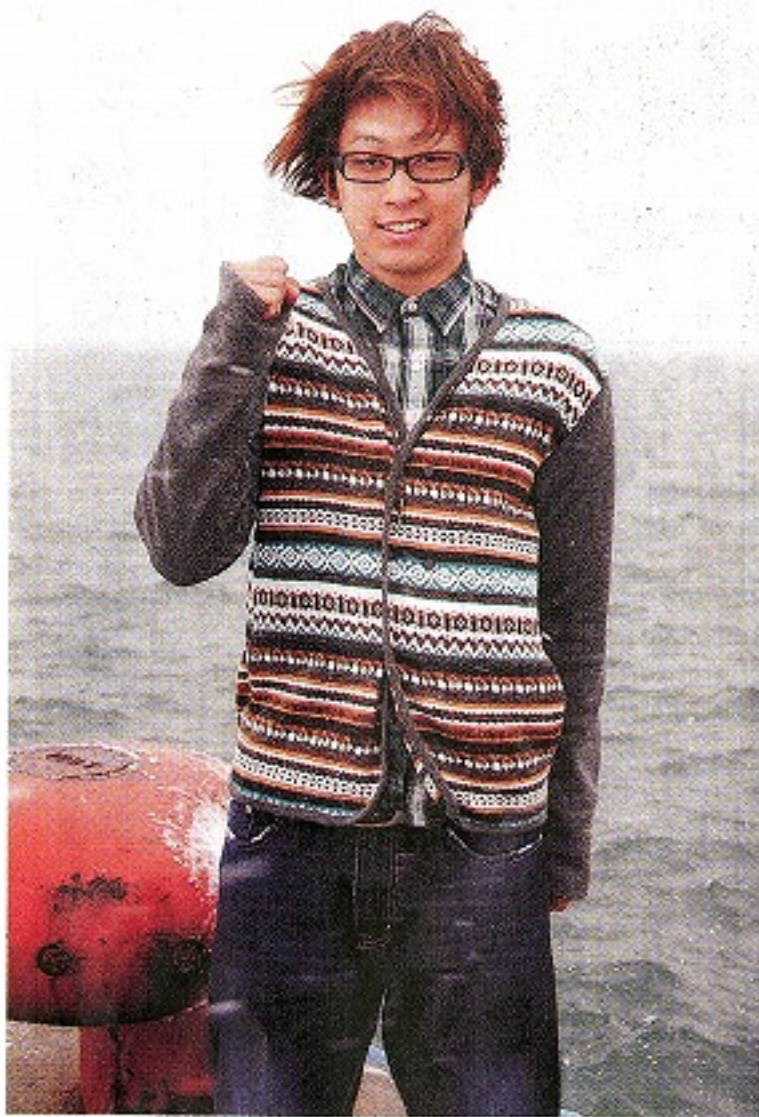
を繰り返して、3日目に

海に飛び込んでご神体

を清める。行修者は4

年連続で務め、毎年1

「プールに通って体を鍛えます」と意気込む藤原さん



を卒業し、今春、道教育大函館校に入学。公務員を目指して勉強に励む傍ら、週3、4回はラグビー部の朝練習に汗を流している。小学校から高校まで剣道を続け、全国大会出場経験もある。

地元で適任の若者が見つからず、神社役員らが探していたところ、同大学教員から声をかけられた藤原さんが「こんな機会は二度とない。ぜひやってみたい」と申し出た。

同神社の野村広章宮司(54)は「何事にも前向きに挑戦する気概のある若者。4年間頑張っている」と激励する。

藤原さんは「厳しい修行に耐え抜き、人生の壁を乗り越える精神力を身につけたい」と話している。

故郷は秋田 初の道外出身者



みそぎ祭り行修者 函教大の藤原さん

【本古内】佐女川神社で来年1月13日から15日まで行われる「寒中みそぎ」の新しい行修者に、秋田県出身で道教育大学函館校1年の藤原哲朗さん(19)が決まった。祭りの長い歴史の中でも初めて

の道外出身の行修者になる。今後、4年間にわたって務め、祭典の期間中は昼夜を問わず水ごりを行い、祈りをささげる。

(松宮二郎)

1831(天保2)年に始まった寒中みそぎは、181回目を迎える。藤原さんは、みそぎ祭りを研究をする同大学の教授を通じて誘いがあり、行修者を務めることが決まった。

藤原さんは小学校から高校までは剣道に打ち込み、大学に入ってからラグビーを始めたスポーツマン。「4年間やりきる覚悟を持っている。つらさを乗り越えて自

.....
行修者に決まり、「寒中みそぎ」への決意を語る藤原さん

「4年間やりきる覚悟」

信につなげたい」と意気込む。その一方で「長い歴史がある祭り。本古内出身ではないので、地元の人に認めてもらえるように頑張りたい」と話す。

秋田の両親からは「初めは体のことを心配されたが、『最後まで責任を持ってやり遂げなさい』と言われた」という。大学の友人も藤原さんを激励する。「祭りを知る友人は驚くが、『頑張って』と励まされてもいる」と話す。祭りが始まるまで筋トレやプールに通い、体づくりに励む予定だ。

同神社の野村広章宮司(54)は「気骨があつていい青年。体力、精神面の強さを感じる」と藤原さんの印象を語る。また、「厳しい環境の中で行われる神事。本古内のため、3人の先輩を見習い、気合を入れて精進してほしい」と話している。

藤原さん以外の行修者は、専門学校生の村上駿弥さん(20)、会社員の竹田峻輔さん(21)、専門学校生の久保田翔さん(18)の3人。祭りは13日午後6時から行われる参籠(さんろう)報告祭で開幕。その後、4人は境内で水ごりを開始する。